

「環境・社会報告書2018～SDGsとともに」の発行

今般、当社は「環境・社会報告書2018」を発行いたしました。

先行して公開しております「新日鐵住金レポート2018」（6月26日PDFをWEBサイトに掲載、冊子は7月24日発行）と併せてご参照頂くことで、事業全般の状況はもとより、「環境経営」という考え方、また社会との関わり等、多岐にわたる当社の取組みについて、広く皆様からご理解を頂く一助となれば幸甚に存じます。

本年度版の内容と編集上のポイントは、以下の通りです。

【本年度版のポイントについて】

① 新日鐵住金グループのSDGsへの貢献

2015年の国連サミットにおいて採択された持続可能な開発目標SDGs（Sustainable Development Goals）に関して当社グループのさまざまな取組みがSDGsの達成に寄与している事例を整理して紹介するとともに、当社の具体的な取組みの一つひとつがSDGsの複数の目標の同時達成に貢献する事例を紹介しています（p10-11）。

② 持続可能な社会に貢献する「鉄」の優位性

鉄が私たちの生活を支える身近な素材であり、リサイクルに最適な素材であること、そしてライフサイクルアセスメント（LCA）の観点からみて環境負荷の小さい優れた素材であることを紹介しています（p12-13）。

③ 持続可能な社会を支える「鉄」の技術

AIやIoT、水素社会、再生可能エネルギーなどのメガトレンドを捉えながら、当社の技術や製品が持続可能な社会に貢献していることを紹介しています（p14-15）。

④ 地球温暖化対策の推進

日本の鉄鋼業はたゆまなく省エネルギーに取り組んできた結果、世界最高水準のエネルギー効率を実現しており、現在も低炭素社会実行計画のもと「3つのエコと革新的技術開発」に取り組んでいます。

その中で当社は、副生ガスを100%回収して鋼材加熱用の燃料ガスや自家発電のエネルギー源として活用したり、排熱を回収して蒸気の生産に活用したりするなど、製鉄所内で発生するエネルギーを無駄なく活用することでCO₂排出量の削減に努めています。さらにCO₂排出量削減に関する中長期的な革新的技術開発として、CO₂の有効物への固定化やブルーカーボンなどを紹介しています（p18-27）。

⑤ 高レベルの資源循環率の継続

鉄の製造工程で発生する副産物をリサイクルすることで、99%の再資源化率を継続するとともに、工業用水の循環利用率も90%を継続しています。



また、当社では全国で回収された容器包装プラスチックの約3割、同じく廃タイヤの約1割を受け入れ、鉄の製造工程の中で100%再資源化しています（p28-29）。

- ⑥ 環境保全費用の高位での投入継続
2017年度は環境保全のために、設備投資198億円（設備投資総額の約5%）、経費853億円、うち環境関連の研究開発に106億円を投入しました。また、設備投資では粉じん防止等の大気汚染防止対策、製鉄所の岸壁や護岸からの漏水防止対策および省エネ対策等を実行しています（p37）。
- ⑦ 生物多様性保全の取組み
当社独自の「郷土（ふるさと）の森づくり」や「海の森づくり」について紹介するとともに、生物多様性保全に向けた製鉄所の具体的な取組み事例を詳しく紹介しています。
- ⑧ ステークホルダーエンゲージメント（p34-35）
従来2ページであったステークホルダーエンゲージメントを4ページに拡充し、各ステークホルダーに対する当社の取組みを分かりやすく紹介し、社会性報告を充実しています（p40-43）。

【編集・構成上のポイントについて】

- ① 表紙には、鹿島製鉄所の環境保全林と高炉の写真をあしらいました。
なお、今号は旧新日鐵が1998年に国内鉄鋼業で初めて発行してから数えると21回目になります。
- ② 一般の読者の皆様にも楽しく読んで頂けるよう、できるだけ平易な表現を用いるとともに、図表、写真、イラストを多用しました。
- ③ 冊子である「環境・社会報告書」と、当社ウェブサイトに掲載している記事・情報との一体性を高めるため、各記事にウェブサイト上の関連情報にスムーズにアクセスできるように、URLとQRコードを表記しました。

（参考）発行部数

日本語版10,000部、英語版1,200部（英語版は9月中旬発行予定）

冊子の記事は当社ウェブサイトでも公開します。

<http://www.nssmc.com/csr/report/>

（お問い合わせ先） 環境部 TEL 03-6867-2564

以上



新日鐵住金

2019年4月 日本製鉄へ